

市民解説員が案内する市内探訪

## 緑風薫る引田散策

～ご参加の皆さまへ お願い～

- ・市内探訪では、集合から解散まで統一行動となっています。
- ・歩行中は一列又は二列で歩き、道路横断時などは交通安全に十分気を付けていただき、急坂、石段などでは足元にご注意ください。
- ・果樹や野菜、植物などを採取しないでください。
- ・地元の方々のご理解・ご協力をいただき、神社や寺院などに伺いますので、失礼のないようにお願いします。
- ・ゴミは、各自お持ち帰りください。
- ・記録写真を撮る場合がありますので、ご了承ください。

### ご挨拶

私たち市民解説員は、ふるさと”あきる野”を愛し、地域の自然・歴史・文化の再発見に努めるとともに、これらを市民の皆さまに紹介し、まちづくりと生涯学習の推進を図る学習ボランティアです。

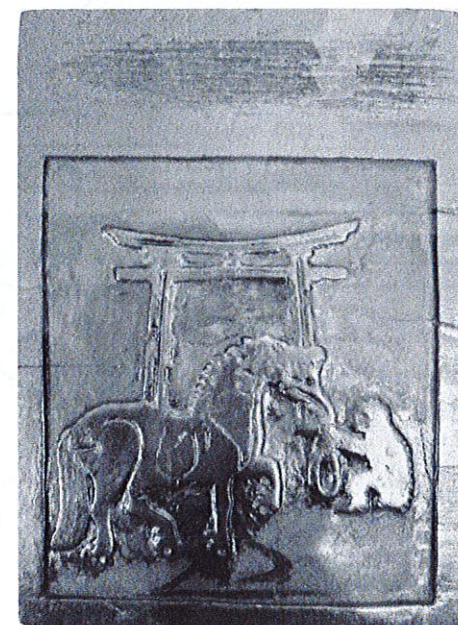
あきる野市は、自然や遺跡、文化財の宝庫です。

この美しく恵まれた環境のもとで、地域の皆さまと一緒に学びあい、活動できることをうれしく思っています。

今後ともよろしくお願いいたします。

#### ◆武蔵引田駅時刻表 (2022. 3. 12現在)

|         |       | 発 車 時 刻 |       |       |
|---------|-------|---------|-------|-------|
| 拝島方面    | 12:15 | 12:45   | 13:15 | 13:45 |
| 武蔵五日市方面 | 12:20 | 12:50   | 13:20 | 13:50 |



真照寺に伝わる猿曳駒絵馬の板木

令和 4 年 4 月 22 日 (金)

あきる野市中央公民館

行程 武蔵引田駅(トイ)⇒①真照寺(トイ)⇒②六枚屏風岩(秋川左岸より)⇒  
③八雲神社(トイ)⇒④宝泉寺(トイ)⇒⑤志村館跡⇒⑥熊野神社⇒  
⑦神送り場⇒⑧もみじ塚⇒武蔵引田駅(トイ)

【参考文献 秋川市史 秋川市地名考 新編武蔵風土記稿 武蔵名所図会  
無漏西游 西多摩神社誌 秋川市ふるさとの道 ほか】

「緑風薫る引田散策」  
コース図

武蔵引田駅  
スタート&ゴール



⑧もみじ塚

引田399-2

由来：昔からもみじが植えられていたので、この名がある。

備考：このもみじは、あきる野市の保存樹木。周囲の石造物のうち、寒念仏供養塔の1つは神送り場から移設されたもの。

⑦神送り場

引田340-1

由来：昔、疫病がはやると村人がここに集まり、疫病を村の外へ送り出すお祭りを行ったことに由来する。

備考：以前は小石を積み上げて塚のようになっていたが、現在は地蔵尊二体があるのみ。ここが引田村と山田村の境であった。

⑥熊野神社

引田724-2

創立：勧請年代は不明だが、引田の集落と共に古くから鎮座されていたものと考えられる。

祭神：伊弉諾(イザナ)、伊弉冉(イザミ)の二神。

来歴：寛文年間(1661~72)の火災で古記録を失ったと伝えられるが、江戸時代には、熊野権現として村人に崇敬されていた。

⑤志村館跡

引田716付近

由来：志村氏の館があったと推定される場所。周辺には殿沢、門坂、的場、馬乗坂等の地名が残し、館の存在を裏付ける。

志村氏：志村肥前守景元は引田村領主であった日奉氏の朝臣平山新左衛門、同右衛門に仕え、その代官を務めていた人物と考えられる。角蔵はその次男。

④龍湫山 宝泉寺(臨済宗建長寺派)

引田681

創建：天文年間(1532~55)に小田原城主北条氏康が一小庵を村の東北方に開いたのが始まりで、開山は以雲心禅師。

本尊：薬師如来。

来歴：嘉永4年(1851)と明治30年(1897)の2度、火災に遭遇するも、縁の深い海老澤家や村人の尽力で再建された。

海老澤家：引田で代々「休哲」を名乗る村医の家柄。後に仁医と呼ばれた峰章は、貧困な患者の面倒をよくみ、社会公益事業や教育面でも尽力し、名医として敬愛された。本堂の左手前に峰章の顕彰碑が建つ。

①引田山 金蓮院 真照寺(真言宗豊山派) 引田863

創建：寛平3年(891)と平安時代にまで遡る。

開山：僧義寛。その後、延文元年(1356)関東管領足利基氏が再興。

来歴：再建当時は秋川対岸の日照山(ニッテヤマ)の頂上にあったが、享禄4年(1531)火災に遭い、宝物、古記録を悉く焼失し、現在地に移る。

境内にはある薬師堂は、焼失を免れ現在地に移築。山門は元禄元年(1688)の建立。

本堂は延享3年(1746)の再建。

本尊：不動明王(木造坐像)。

文化財：薬師堂(都指定有形文化財 昭和28年11月3日)

建築年代は室町時代(推定)

山門(市指定有形文化財 平成4年7月9日)

猿曳駒絵馬(都指定有形民俗文化財

令和3年3月19日)

②六枚屏風岩

引田1774

由来：加住丘陵の北崖に発達した六基の土柱群が、まるで屏風を立てたように見えたことから、この名が付いた。東京都指定の天然記念物(昭和47年4月19日)。

形成：関東山地から押し出された土砂や礫が堆積して出来た上総層群(加住礫層)と呼ばれる地層が秋川の下刻、側刻現象に加え、風雨などによる浸食で壁面が拡大して土柱を形成。

備考：八雲神社裏手からの眺めは【新東京百景】の1つ。

③八雲神社

引田776

創立：永禄年間(1558~70)に当地の代官・志村肥前守景元が、尾張国の津島牛頭天王社を勧請。

祭神：素戔鳴尊(スサノミコト)。一般的には「お天王さま」と呼ばれ、親しまれる。

来歴：昔は牛頭天王社(ゴズテンノウジヤ)と呼ばれ、明治3年の神仏分離により社名を八雲神社と改称。